

特 62



著者を主にある信仰の
道に優育教導したる故
監督ヒカ
キテアユ
師の紀念
供ふ
シヤウ
ア
一

第參版増補



目次

第壹部

参版序文	一頁
序文	一
再版序文	九
祈禱に就ての勸話	一五
いのりのまき	二三
聖句	二五
朝の禱 (其一)	二七
朝の禱 (其二)	三三
正午の禱	四五
晩の禱 (其一)	四九
晩の禱 (其二)	五七

目次

食事前後の禱.....六六

幼年者の禱.....七〇

父母への勧め.....六八

朝.....七〇

晩.....七二

臨時用祈禱.....七三

日曜日朝.....七五

日曜日晩.....七六

公禱前.....七八

公禱後.....七九

聖書讀聽前.....七九

公會一致のため.....八一

降臨節.....八一

降臨節主日.....八三

聖職接手續.....八四

基督降誕日.....八六

除夜.....八七

新年.....八八

現異邦日.....九一

大齋.....九三

聖週(教訓).....九四

聖週内三日間用.....九五

聖週末曜日(聖餐設立紀念日).....九七

受苦日(金曜日).....九九

復活日前夜.....一〇二

復活日.....一〇三

昇天日.....一〇四

聖靈降臨日.....一〇五

三位一體主日……………一〇七

聖徒祝日……………一〇八

變容貌日……………一〇九

信徒按手式前……………一一〇

誕生日……………一二二

婚姻前……………一二三

既婚者……………一二四

旅行……………一二五

憂苦の時……………一二七

○

病者……………一二九

聖き死を求むる禱……………一二二

喪中……………一二三

墓邊の禱……………一二七

代他祈禱

○

聖公會のため……………一三一

傳道の事業のため……………一三三

教會のため……………一三四

皇室のため……………一三五

父母のため……………一三六

夫或は妻のため……………一三七

子女のため……………一三八

家族のため……………一三九

未信者のため……………一四〇

病者のため……………一四一

信徒按手式志願者のため……………一四三

信徒按手式受領者のため……………一四五

洗禮志願者のため……………一四六
 旅行者のため……………一四六
 罪人のため……………一四七

第 貳 部

聖餐の準備……………一四九
 自叙の語……………一五七
 ちさせのいはよ……………一六五
 日課及詩篇……………一六七
 聖餐式前の祈禱……………一六九
 陪餐後の感謝……………一七六
 主よごもにやごりてよ……………一八二
 感謝用日課及詩……………一八四
 陪餐後の禱……………一八五
 以 上

祈禱乃園第參版序

この書が神の祝福を受けて、廣く人々の用
 ふる所となり、或る殊特の場合に信仰の補
 益となりし實例も尠からざりしは著者が
 深く感謝する所なり。第貳版既に市に空し
 きこと茲に四年、今多少の訂正を施して之
 を我が同胞の用に供す。願くは全能者の恩
 恵この書を聖別め給はんことを。
 此書は足らざる所甚だ多し、然れども監督

フオツス師の「陪登の友」とエ、エフ、キングダ氏の
の「小祈禱書」と併せて信徒の靈生を養ふ器
たることを得ば幸なり

明治三十六年十二月

著者しるす

祈禱の園序

功名の夢破れ富貴の漚碎けて、幽静寂寞の
天地に俯仰するとき、心奥に潜める思念を
喚醒して自ら省れば、人生の希望果して何
物ぞ、人間の始終果して如何、樂天知命の彼
岸何を其れ茫々乎として見るを得ざるや。
知命！知命？我れ未だ其の源泉を知らざ
るなり。樂天！樂天？我れ未だ其の何者な
るやを知らざるなり。嗚呼天よ天よ人間の

を照らせりと雖も、我は此の寶を瓦器に藏
 するのみ(哥後四)我が心靈の眼は未だ神と其
 妙智靈能の榮光を明に見ると能はざるな
 り。我れ猶ほ暗鏡(哥前十三)に對する人の如く
 猶ほビスガ峯頭に遙々雲烟を隔て聖土を
 望むが如し(申三十)是に於て我れ再び歌へり

あゝ主よ、我がはくはわが祈をきく
 我が號呼に耳を傾け給へ
 わが涙を黙し給ふ勿れ
 我はなんちに容る旅客

すべて我が先祖の如く寓れるものなり

我れこゝを去りてうせなんさす
 れがはくは見すぐして

我を爽快ならしめたまへ

我は眠りたれども我が心は醒るたり、時に
 我が愛する者の聲あり(雅歌五)曰く。視よわれ
 戸の外に立て叩く。もし我聲を聞て戸を開
 く者あらば我はその人の所に就ん、而して
 我は其人と偕に其人は我と偕に食せん(黙三)
 わが肉を食ひ我が血を飲む者は我に居り

我もまた彼に居る。生る父我を遣す父に由
て我が生る如く、我を食ふ者も我に由て生
べし(約六〇五)求めよさらば受ん、而して爾曹
の喜満(約十六)べし。我れ應じて歌へり

ゆれ主の美しきを仰ぎ

其の宮をみんが爲に

わが世にあらんかぎりば

主の家に住んごそ願ふなれ

なんぢの大庭にすまふ一日は

千日にもまされり

我は悪の幕屋にならんより

寧ろわが神の家の

門守にならんごそ願ふなれ

嗚呼我が涙は祈禱となり「サクラメント」と
なり、感謝となり、讚美となりぬ。而して我が
生命は聖者の生命に化せられたり。我は今
より死海を渡りて、新鮮なる天地に達し、生
命の川、水清く、生命の樹、緑滴る樂土に、至聖
全愛の「トリニチー」を讚美する時まで、朝々

・夜々「祈禱の園」に在て、我が救主の功德に由り、神の憐恤と慈愛の樹陰に息んを願ふなり
アーメン

明治二十四年六月上院

著者識

祈禱之園 第二版序

西哲曰く祈禱も一の科學なり、而して其の學たるや至高にして不用意に上達しうべきものにあらず、須らく確立せる原則に基き、法則に従ひて之を識り之を行ふべしと。眞に祈禱の生活に經驗ある者の言と謂ふべし。蓋し祈禱は信仰(廣き意味にて)の如く人の性情の自然に従ふを要する如く、鍛煉學習して成熟すべきものなるとは、信仰が

發達成熟する道行と敢て異るとなし。是故
に初學の人の爲に之れが案内たるべき書
冊の種類も、西洋にては千を以て數ふるに
至れり。余も數年以前より感ずる所ありけ
れば、曾て『いのりの志をり』と題せしものを
上木せしに暫時にして三版に至りぬ。固よ
り僥倖と曰ふべきのみ。然れどもさらに世
に補益あらんとを冀ひて大に改正を加へ
且つ題號を『祈禱の園』と改めて世に公にし

ぬ。時に明治廿四年七月なり。爾來一年有餘
にして此書も亦た市に空しくなりけるが、
閑を得ずして久しく大方の愛讀者に反け
り。今や少暇を得て再版に附するに當り、曾
て英國にて蒐輯したる十數冊の參考書に
據り更に訂正増補して之を發行するに至
れり。若し此書により我が同學の兄弟を益
するを得ば著者の微志も亦た充された
りといふべし。

此書固より一個の小冊子なれば決して盡せりといふ可らず。然りと雖も複雑過長ならんとを恐れて止を得ず省畧せし事甚多し。若し聖旨にして許し給ば續篇にて補充せんことを期す。

終に一言すべき要點あり。此書は單に初學の人に祈禱の案内者たらんとを期せしのみなれば、此書を用ひて之れが奴隸たるものなからんとを願ふ。書籍の奴隸となるもの

は書籍の爲に發育を妨げらるべし。此書と共に靈を用ひ心を用ふるを要す。

又此書に過失を發見せし諸君あらば乞ふ一篇の忠告を著者に與ふることを吝む勿れ。余が信仰の承認しうる限り、勉めて大方の教を求め、以て完成に至らしめんことを怠らざるべし。余はまた此書を用ふる兄弟の祝福を祈り、且つ著者の爲に祈禱あらんとを願ふ。

明治廿六年九月

著者しるす

十四

祈禱に就ての勸話

人もし顧省みて自ら罪の僕奴たることを
深く心におぼゆる時は、必ず地に伏してキ
リストよ罪人なるわれをあはれみ給へと
叫ぶなるべし。又もし自らの微弱と義務の
重大ごとくを知る時は、必ず天に向て神よ
恵を降してわが微弱をたすけ給へと祈求

十五

るなるべし。或は神の豊かなる恵を感じた
 るときは、艱難のうちにも喜びて、天の父よ
 主の鴻大なる恩恵を謝し奉ると頌ふなる
 べし。この三の懺悔求恵感謝を合せて祈禱
 とはいふなり。而して罪をおぼえて救免を
 ねがひ、必要を知て恩恵を求め恩恵を受けて
 感謝する事は、唯おのれの爲にのみならず
 諸の人の爲にもなるべきことにて、汝をな
 やめ攻る者の爲に祈禱せよと聖書のうち

には記されたり。之は主イエスも使徒等も
 共に命じ勧めたることにして、聖書に著明
 なる教旨なり。
 偕この祈禱につきて、予は痛しき誤謬の信
 仰を有するものあるとを屢経験せり、即ち
 祈禱は信徒の義務とのみ思ひ居ることな
 り。如何にも信徒たるものは祈禱を爲さね
 ばならぬことにて、一度之を怠るは即ち一
 度爲すべきことを爲さざる罪を犯すなり。

然し祈禱に就て斯の如き信仰をのみ有する人は却てしばしば之を怠るものなり。何となれば人は義務なり爲すべきとなりとのみ思ふ事は、爲すよりも爲さぬ方が屢なるべし。又祈禱を吾が義務とのみ思ひて爲すもの、言葉は、神の前に至るべきやいと覺束なし。予は只信徒のみならず道を宣る人々の中にも、往々祈禱を怠るの罪をのみ誠めて、祈禱の幸福を教へざるとあるを見

たり。豈に祈禱の義理を盡すものならんや。そも、祈禱は信徒の義務なると固よりなれども、これ又信徒の特權にして、キリスト信徒のみ獨り祈禱の幸福を有すると曰ふべし。若し罪あるを知りて赦免を求むべき所を知らずんば、人の不幸は如何ならん。もし赦免を乞ふべき所を知るも求むるとのならぬ身の上ならば、人の不幸はこのうへなかるべし。又人おのれの微弱を覺ゆれ

ども助力を求むべき有力者を知らずば、其
 人の失望はいかゞならん。有力者は知れど
 も求むるとならずば悲歎はなほ甚しかる
 べし。我儕は贖罪主、保惠師なるキリストを
 知り、全能全智の神あることを知り、唯之を
 知るのみならず、キリストは我儕に告て誠
 に眞に爾曹に告ん凡そ我名に託て父に求
 る所のもの父これを爾曹に授たまふべし
 求よ然らばうけん而してなんぢらの喜び

満べしと曰へり。あゝ兄弟姉妹よ、われらは
 この喜びを有て常に感謝することを得る
 なり、豈に大なる幸福ならずや。これ即ち世
 の人の有つ能はざる祈禱の幸福なり。然し
 祈禱の幸福は只これに止まらず。尙ほ深く
 考ふれば吾儕はいま神の榮光ある位に至
 ること能はざれども、吾らの祈禱はよく常
 に昇るを得るなり。黙五〇八及び八〇四。即
 ちわれらの如き賤しき生物も祈禱の香を

以て至聖神と交はることを得るなり
 今この小冊子を著せしは兄弟姉妹が祈禱
 を爲す案内となし必要なる時機に用ふべ
 き禱文を示して、一人或は數人相あつまり
 て神に事ふる義務をなす時のたよりとし、
 祈禱の幸福を受けしめんがためなり。もし
 兄弟姉妹之を用ひて靈魂を壯健にし信仰
 と愛にすゝむあらば、唯に著者の幸福のみ
 ならず、天に在すわれらの父もまた愛で給

ふとなるべし

Sweet hour of Prayer

Sweet hour of Prayer

- 一 しづけきのりの
 なやみある世より
 ちくのおほまへに
 たづさへいたりて
 こまはいさたのし
 われをよびいだし
 なへてのもこめな
 つぶさにつげしむ

- 二 しづけきのりの
 さまよひいでたる
 あやふきみちより
 こまはいさたのし
 わがたまをすくひ
 こまなひかへりて

こころをささぐ

わたなのがれしむ

三 しづけがいのりの

さきはいたのし

きびゆるじんかの

やまのたがれより

ふるさとながめて

のぼりゆく日まで

ながさめあたへ

よろこびをみたす

爾曹信じて祈らば求ふ所悉く得べし

(馬太廿一〇廿二)

恒に各様の禱告を祈求を以て靈に由て求めかつ諸の聖徒の爲にも憤みてこの事をなし祈て倦ざるべし

(以弗六〇十八)

祈は晝夜祈るところの撰びたる者を久く忍ぶとも終に救はざらんや

(路加十八〇六、七)

朝の祈禱（其一）

毎朝起出るときに左の如く唱ふべし

我を造り給ひし聖父、我を贖ひ給ひし聖子、
我を淨め給ふ聖靈に榮光あらんとを。

○ 沐浴し終り衣服を改めしのち跪きて左の
如く祈るべし

父と子と聖靈の聖名による　アーメン

主禱文

天に在ます我等の父よ　云々

使徒信經

(用不用は適宜なり)

我は天地の造主云々

次に左の祈禱をささぐべし

至聖くして榮光ある三位一體の神よ。主は無量愛を以て我を造り、主の榮光を顯はす爲に、わが生命に又一日を加へ給へり。故に此の賤き僕は聖座の前に伏して主をたへ奉る。願くは主の賜ひし此の生命のあらん限り聖旨に従ひて主に事ふるを得さ

せ給へ。

アーメン

あゝ神よ。御慈悲を以て我が凡ての罪を赦し、御仁愛を以て今日も我を保護り、諸の危難より救ひ、誘惑にあふ時は助力を與へ給へ。願くは思念と言葉と行爲の罪(殊に……)の罪より我を救出し、我をして勵て我が業務を盡させ、他人に對して我慾なからしめ給へ。父よ願くは聖子イエスキリストの良模範に従ひ、之に似たる聖き生涯を送ると

を得させ給へ。イエスキリストによりて希こひねがひたてまつる。アーメン

神よ。願くは我と共にキリストの體からだに連つらひ接あはりて其の肢たとなれる人々、殊ことに我が家族親戚朋友……(父母、兄弟、姉妹、其他、何某)……に恩恵めぐみと祝福しゅくふくを降くだし給へ。願くは彼等に要なくてはならぬ用ものをあたへ、また諸の罪つみと災禍わざはひより救すくひ、いよく主を識しります。主をあいせしめ給へ。聖子イエスキリストによりて希こひねがひ奉る。アーメン

次に當日の特禱其他の祈禱を加ふるをよ
しとす
其のくち左の如くいふべし

主よ。我れ今自己みづかを主なに獻たまへ奉たつる。願くは恩恵めぐみと能力ちからを賜たまひて、信仰しんかうの善戦よきたたかひをたゝかひ、身みを終おはるまで聖旨みことばに合あふ忠義ちうぎの僕しもべたることを得えさせ給へ。主イエスキリストによりて希こひねがひたてまつる。アーメン
父と子と聖靈なる全能ぜん能の神よ。大なる慈愛じあいを以て、今もいつまでも、我を祝福しゅくふくし我を保ま

護り我を導き給へ。

アーメン

朝の祈禱(其一)終

朝の祈禱(其二)

起出るとき左の如く云ふべし

我は目さむる時容光を以て飽足るとを得ん。
(詩十七〇十五)

イスラエルの神のみ奇しき事跡をなしたまへり、神なる主はほむべきかな。其の榮光の名は世々にほむべきかな、全地はその榮光にて満つべし。アーメン、アーメン

(詩七十二〇十八、十九)

沐浴し衣服を改めしのうち、聖書を讀み、跪きて左の祈禱をなすべし

主 禱 文 天に在す云々

みたまよくだりて ながつくりまし
 こころにめぐみを あふれしめたまへ
 なくのたまものく あぶらなうくぎて
 いのちのいづみを ひらきのましめよ
 こころのくらきを てらしみちびきて
 けがれもはぢをも さりのぞきたまへ
 わがうちにやどり やすきをたもたせ

そごべよりおそふ あたをふせぎてよ
 ちくみこみたまの みつのくらぬなる
 ひさりのみかみを ささらしめたまへ
 ちくみこのおくる みだまみちびげば
 かみのみさかえを まこしへにうたはん

或は歌の代りに左の祈禱を用ふるもよし

全能の神よ。一般の人の心事は主にあらは
 れ、一般の欲望は主に知れ、一般の密事は主
 に蔽るゝとなし。願くは聖靈の感化にて我儕

の心の思念を淨め、全く主をあいし、聖名を
 崇むることを得させたまへ。主イエスキリ
 ストによりて、冀ひたてまつる。アーメン
 われ臥していね、また目さめたり
 主われを支へたまへばなり
 慈悲の父、全能の神よ。我に賜りし種々の御
 恩の爲に、主に感謝し、主を讚美へ奉つる。わ
 あ神よ、主は聖像に象りてわれを造り、イエ
 スキリストの尊き血をもつて我を罪惡よ

り救ひ「バプテスマ」を以て我を清め給ひし
 のみならず、過し時の間、壯健衣食朋友其他
 靈魂と肉體に必要物を賜ひて、今日も主に
 事へしめんとてこの僕を眠より醒したま
 へり。われこの種々の恩恵を深く感謝した
 てまつる。願くは讚頌と榮光永久に父と子
 と聖靈なる一體の神にあらんとを。

アーメン

聖き父よ。我れは過し罪過を記憶し、御前に

伏して赦免を哀求めたてまつる。主よ。我は
 思と言と行をもて主に反けり。我は主を忘
 れて自己が慾の好む所に従へり。神よ。我れ
 我が罪を悲み懺悔し奉つる。あゝ父よ、我を
 憐み給へ、我を憐み給へ。願くは聖子われら
 の救主イエスキリストの贖罪の全き犠牲
 によりて我をゆるし給へ。

ロソフを以て我を潔め給へ

さらばわれ浄まらん

われをあらひ給へ

さらば我れ雪よりもしろからん

全能の神よ。今日も總て靈魂と肉體にかゝ
 る災厄其他諸の危難と主の聖旨に逆ふ萬
 の事物を防ぎ安全に我を保護りたまへ。聖
 き靈よ。我が心靈を新にし、諸の惡に誘惑る
 る時、我を強め助け給へ。また諸の潔淨事業
 をなし聖淨に進ませ、快乎世を去ることを
 えさせ給へ。靈の神よ。我より離れ去り給ふ

勿^なれ。願^{ねが}はは僕^{しも}を導^{みち}き助^{たす}けて、日^ひ々^と峻^げき穿^す路^ろ
 を行^ゆしめ、小^{ちひ}門^まを通^{とほ}りて、終^{つひ}に榮^は光^{くわう}の天^{てん}國^{こく}に
 達^{いた}り、永^{とこ}久^しの喜^{よろ}樂^{こひ}を受^うくることを得^えさせ給^{たま}
 へ。この願^{ねが}望^わをわが救^{すく}主^{ぬし}イエスキリストの
 功^{いさ}徳^をに由^{より}て冀^{こひ}ひ奉^{たて}つる。アーメン
 恩^{めぐみ}深^{ふか}き父^{ちち}よ。今日^{けふ}も我^{われ}が愛^{あい}する者^{もの}我^{われ}に親^{した}き
 者^{もの}(殊^{こと}に何^{なに}某^{ごと})と共^{とも}に在^{いま}し、彼^{かれ}等^らを危^き難^{なん}にあ
 はせず却^{かへり}て誘^こ惑^ごを防^{ふせ}ぎ、罪^{つみ}より救^{すく}ひ給^{たま}へ。願^{ねが}
 くは此^{こゝ}の邦^{くに}土^にを治^{しづ}めす君^{きみ}王^みと其^{その}民^{たみ}とを祝^{しゆ}

福^{ふく}して平^{やす}安^あと繁^{さか}榮^たをあたへ公^{こう}平^{へい}と真^{しん}理^りを
 固^{かた}く立^たて給^{たま}へ。願^{ねが}はは聖^{せい}公^{こう}會^{かい}の聖^{せい}職^{しよく}をめぐ
 み、主^{ぬし}の聖^み名^なをのぶる者^{もの}を助^{たす}け給^{たま}へ。願^{ねが}はは
 病^{やめるもの}人^{ひと}と死^しに臨^{のぞ}む者^{もの}を憐^{あは}れ、心^{こゝろ}または肉^{からだ}體^{たい}に
 困^{くる}苦^{しみ}ある者^{もの}(殊^{こと}に何^{なに}某^{ごと})を慰^{なぐさ}め、迷^{まよ}信^ひの教^{をしへ}を
 信^{しん}ずる者^{もの}、神^{かみ}を知らざる者^{もの}、罪^{つみ}のうちにある
 者^{もの}を信^{しん}仰^{かう}と救^{すく}拯^ひに導^{みち}き給^{たま}へ。聖^{せい}子^こイエスキ
 リストによりて冀^{こひ}ひ奉^{たて}つる。アーメン

此所にて當日の特禱其他の祈禱を用ふ

るをよしとす

又左の獻身の祈禱を爲すべし

神よ。我は主の有なり。我が有ものは生命も
 材能も皆な主の恩賜なり。我れわが全靈全
 生全體を主に供へ奉つる。願くは我を受て
 聖旨に合ふ聖き象となし、今よりのち永久
 に至るまで聖旨に従ふことをえさせ給へ。

アーメン

父と子と聖靈なる神よ。願くは今よりのち

窮りなく我を祝し我を保護り給はんこと
 を。また主を信する者の靈魂神の憐恤によ
 りて安息せんことを。

アーメン

朝の祈禱 (其二) 終

正午の祈禱

(詩百十九篇三十三より四十九までを用ひ
然る後ち左の禱を用ふるをよしとす)

我は主の僕なり、我に智慧をあたへて主の
證詞を守らしめたまへ。

主よ憐みたまへ

キリストよ憐みたまへ

主よ憐みたまへ

主禱文 天に在ます云々

正午の禱

主よ。我は今日の繁忙き業務と憂慮のうち
 にありてより主にいのる。願くは我が心を
 主の許に上らせたまへ。神よ。主は聖名を呼
 ぶ者には慈愛と恵と憐恤あり。願くは我が
 爲す所を祝福し我を保護り給へ。神よ。過し
 時の罪と怠慢を以て聖旨に反しき所を赦
 免し、猶ほ來んとするどきの間も、主の憐恤
 と恩寵を賜ひて、諸の悪事災難より救ひ給
 へ。我等の主イエスキリストによりて冀ひ

奉つる。

アーメン

若し餘暇あらば此所にて他の祈禱を加
 ふべし

正午の頃十字架の上にて、我と世の人の爲
 に苦み給ひし主イエスよ。願くは貴き御血
 を以て贖ひ給ひし我等を救助け給へ。

アーメン

父と子と聖靈なる神よ。願くは我と我が家
 族親戚朋友を祝福し保護り給へ。アーメン

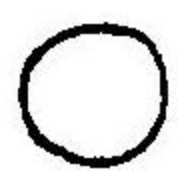
正午の祈禱終

晩の祈禱 (其二)

毎夜聖書を読みたる後左の祈禱を爲すべし
父と子と聖靈の聖名による アーメン

主禱文

天に在ます云々



至聖全能の神よ。主は我が功德によらず、唯だ主の無量慈悲によりて、今日も我を守護り、多くの危難を防ぎ、種々の恩恵を加へ給

へり。あゝ、仁慈深き主よ。願くは我が感謝讚美を受け、主の恩恵を感謝する心を懷て静に臥し休ふとをえさせ給へ。アーメン

爰に於て左の祈禱を爲し自ら糺すべし

聖父よ。願くは聖靈の光明を以て我を照し、我が過し諸の罪を省み、主が知り給ふ如く己を知り、之を誠に悲痛み悔改むることをえさせ給へ。主イエスキリストによりて冀ひたてまつる。アーメン

爰に於て、靜に朝より如何に一日を送りしかを考ふべし

我は自宅〔及び聖堂〕にて祈禱を爲し、や。正しく之を勤めしや。
我は我が營業〔職務〕に出精せしや。
我は今日如何なる談話をなし、や……
……朝に……晝に……夕に。
我は何を心に思ひしや……朝に……晝に……夕に。

殊に我は信徒が守るべき信仰の規則を守りしや。我が愛と望と信仰は如何なりしや。我は聖書を読み、また之に従ひて日を送らんと勉めしや。

爰に於て左の祈禱をなすべし

全能の神よ。此の賤き罪人を憐み給へ。主よ、我は思念と言葉と行為によりて罪を犯せり……殊に(何々)の罪を犯せしことを悲みて懺悔し奉つる。願くは救主イエスキリス

トによりて是等の罪と、其他今記憶せぬ諸の罪を赦し、悔改に合ふ果を結ぶ爲に恩恵と能力を與へ給へ。アーメン

神よ。願くは我が愛し親むもの(殊に何某を)憐祝し給へ。また天下の聖公會殊に日本聖公會の監督聖職傳道士及び我が屬する教會に恩恵をわたへ給へ。また我を助け我を恩みたる人々と我朋友を祝し給へ。神よ。世にありて悲痛み苦惱み困難み疾病ふ人々

を憐み安慰め給へ。願くは此等を悉く祝し
 護り導き助け給ひて、終に天國の幸福に達
 らせ給へ。聖子イエスキリストによりて冀
 ひたてまつる。アーメン
 神よ。我れ死に近きて世を逝んとする時は、
 罪の恐怖と耻となからしめ給へ。主イエス
 キリストによりて冀ひ奉る。アーメン
 神よ。我が靈魂と肉體を手によだね奉る。願
 くは今夜我と共に在して我を保護り、凡の

悪念と恐怖と災禍を除き、静に罪なき安眠
 をあたへ、明朝には清く健康なる精神と肉
 體を以て猶一日の本分を盡すことを得さ
 せ給へ。聖子イエスキリストによりて冀ひ
 たてまつる。アーメン
 父と子と聖靈なる神よ。今夜も、いつまでも、
 我及び我が家族親戚朋友を祝福ひ保護ま
 た聖別め給へ。アーメン

晩の祈禱 (其一)終

晩の祈禱 (其二)

聖書を讀みたる後ち左の如く云ふべし

父と子と聖靈の聖名による アーメン

我われは薰物たきものの如ごとくにわが祈いのりをみまへにさくげゆふの
供物そなへものの如ごとくにわが手てをあけて聖前みまへにさくげんと
を願ねがふ (詩百四十二〇二)

主 禱 文

天に在しませす云々

詩百二十一篇

晩の禱 其二

われ山やまに向むかひて目めをあげん

わが助たすけはいづこより來きたるべきぞ

わが助たすけは主しゆより來きたる

主しゆは天地あもつちをつくりたまへるものなり

主しゆは汝なんぢの足あしの動うごかざるを容ゆるしたまはず

汝なんぢをまもるものはまごろみたまふことなし

視みよイスラエルを守まもりたまふものは微睡まぼろむこともなく

寢ねむることもなからん

主しゆはなんぢを守まもるものなり

主しゆはなんぢの右みぎ手てをおほふ陸かきなり

ひるは日ひ汝なんぢを打うたす

夜よるも月つきなんぢを打うたじ

主しゆはなんぢを守まもりてもろくの禍わざはひを免まぬれしめ

又またなんぢの靈魂たましひをまもり給たまはん

主しゆは汝なんぢの出いづるさ入いるさをまもり

今いまより永遠とこしへに至いたるまでまもりたまはん

此の外詩の第四篇、第卅一篇一―六、第九

十一篇、第百廿七篇、第百三十四篇等の一

を用ふるも可なり

次に左の祈禱を爲すべし

愛いつくしみ深ふかき父ちちよの主しゆは我われが賤いやしく過失あやまち多おほにも拘かへ

らず、恩恵を以て恙なく今夜に至らせ給ひしとを感謝し奉つる。殊に………（此處にて一日中の恵をのぶべし）………の爲に主を讚美し奉つる。今日艱難に遇しも主の恩にて守られ甚しく堪難きことなく、又之がために我が益となる教戒を與へ給ひしを謝し奉つる。願くは何事によらず主の降し給ふものによりて聖にすゝみ、聖名の譽をあらはすことをえさせ給へ。父よ。聖子我

等の主イエスキリストにより希ひたてまつる。
アーメン

愛に於て左の祈禱をなし自ら糺すべし
天の父全能の神よ。願くは今我に我が罪と過を明白に示し、誠に罪を悔み悲む心を授け給へ。我いま主の御前にあれば、自ら欺き自ら寛容すことなく犯せる諸の罪過を糺すことを得させ給へ。
アーメン

此處にて自ら糺すべし

（詳細に自ら糺すためには聖餐を受ける準備の部を見よ。）

懺悔禱文

聖なる聖なる聖なる永久に活て在す主、天
 地の造物主、萬民の審判者なる全能の神よ。
 この卑き僕は幾度となく思念と言語と行
 爲を以て主に逆ひ、主に罪を犯せり。我れ今
 これらの罪を悔悲み御前に懺悔し奉る。あ
 め神よ。願くは我が諸の罪、殊に……の罪
 をゆるし、今よりのち力を盡して主に事へ、
 諸の誘惑に克ち、一心に勵みて主の旨に従

ふ恵と力を與へ給へ。此事を我等の主イエ
 スキリストによりて冀ひたてまつる。

アーメン

使徒信經

(用不用は適宜なり)

主よ。我等の暗黒を照し、主の大なる憐恤を
 以て總て今夜の危難を防ぎ給はん事を、聖
 子我等の救主イエスキリストの慈愛によ

りて希ひ奉る。

アーメン

此處にて他の臨時用禱文または他人の爲の祈禱を用ふべし

主よ。我と我が家族親戚朋友及びすべて我が祈禱を求むる人々の上に平安と守護を
あたへ給へ。主よ。我れ今、是等の人々と我が
肉體と靈魂を主の御手にゆだね奉つる願
くは今夜罪を犯さるやう守り給へ。神よ。
醒る間に我等を救ひ、寝る間も我等を護り

給へ。また願くは明日も新しき力を以て主
に事へんが爲に、今平穩に休息せ給へ。此の
祈禱を聖子イエスキリストによりて希ひ
たてまつる。
アーメン
父と子と聖靈なる神よ。我と我が代りて祈
りし人々を守り、今も永久までも祝福ひた
まへ。
アーメン

晩の祈禱 (其二) 終

食事前後禱文

食事をなす前には左の如く唱へて主の
恩寵を祝謝すべし

最も讃むべき主よ。今我が受んとする糧の
爲に謝し奉つる。願くは此を祝福して我を
養ひ給へ。

アーメン

食事をはる時は左の如く云ふべし

主よ。今受たる恩寵の爲に謝し奉る。願くは
我が肉體と共に我が心霊を強め、主に事へ

アーメン

てわが本分を盡すことを得させ給へ。

幼年者の祈禱

○イエス曰くおさなごを我に就らせよ……天国に居る者は此の如きものなり

○神はおさなご乳呑子の日に讚美を備へたり

○童子サムエルは主の前にありて成長り

兩親が其子女に祈を教ふるは第一の本分なり。成長のち母の膝にていのりし幼時の祈禱を記憶して悔改めしこと世に其例甚だ多し。他年世

に秀れし人となりてのち母が祈禱の時に自己にあたへし恩恵を感謝して神に榮光を歸したる有名人の事跡も擧て數ふべからず。父よ。母よ。子女は神が委ねたまひし最も大なる珍寶なり。之を聖く缺なく保管り、主にありて育て教ふべし。次の祈禱は幼兒に成るべく諳誦さすべし。

朝のいのり

はじめ 始に小女に適當なる讚美歌をうたはし
むるはよきことなり

主しゆのいのり 文ぶん (天に在ます我らの父よ云々)

神様よ。昨夜も恙なく過てまた一日を迎へ
しことを謝したてまつる。何卒今日も聖靈
の恩にて神を愛し親に従ひ學問をはげみ
正直に柔和なる心を以て言葉も品行も聖
旨に合ふことをえさせ給へ。主イエスキリ

ストによりて希ひたてまつる。アーメン
天の父よ私の父母(兄弟姉妹及び何某)と朋
友を今日も守護り祝福をあたへ給へ。

アーメン

主イエスキリストよ私を教へ導き、主の善
き模範に習ひ、神を愛し聖くなることをえ
させ給へ。アーメン

願くは主イエスキリストの恩恵、神の慈愛、
聖靈の交り我らと俱に窮なくあらんとを。

晩のいのり

はじめに適當なる讚美歌を用ふるを可し

主 禱 文 (天に在ます我らの父よ云々)

神様よ。今夜に至るまで私に種々の恩恵を
たまひしことを謝したてまつる。何卒暗さ
中にも主に頼り恐れず清く眠らせ給へ。ま
た天使たちに命け此家を守らしめ給へ。主
よ。父母(兄弟姉妹其他何某)に幸福を降し朋
友をめぐみたまへ。主イエスキリストによ

りて希ひたてまつる。

アーメン

天の父よ。私が今日悪き事を爲し、悪き言を
いひ、悪き心を有ちしことを赦し、天國の幸
福に達らせ給へ。救主イエスキリストによ
りて希ひたてまつる。

アーメン

救贖主イエスキリストよ。主は私の爲に十
字架にかゝり給へり。私に此のことを記憶
へさせ、主を信じ主をあいすることを与え
せ給へ。

アーメン

願ねがはくは主しよイエスキリストの恩めぐみ、神かみのいつく
しみ、聖せい靈れいのまじはり、われらとともに窮きつきな
くあらんことを。
アーメン

幼年者の祈禱終

臨時用祈禱

こゝに記しるす祈いの禱りは朝あさ夕ゆふの祈いの禱りの時とき、
其その期き節せつに従したがひて適てき當たうの祈いの禱りを加くへ、
または聖せい堂だうの公こう禱たうの前ぜん後ご等とうに用もちふ
る爲ために掲かげたるものなり

日曜日朝祈禱

惠めぐみ深ふかき主しよイエスよ。主しよは一週ひとまはしの首はじ日めに死しよ

り甦りて、われらの復活また生命となり給
 ひぬ。願くは我等をして罪より甦らしめ、現
 世にては新なる生命の道を歩み、末世にて
 は主と共に永久の幸福に入しめ給へ。又今
 日は殊に主の榮譽と榮光をあらはし、他人
 と自己の救拯の爲に、聖くこの日を過すべ
 き恵と力を與へ給へ。

同じく晩禱

憐恤ある主イエスよ。主の僕は今日この幸

なる主日を守り了りて、いま休息の時に至
 れるを感謝し奉る。願くは主に事ふるの足
 らざる所と知らざると聖旨に合はぬ事を
 赦し、今日受し恩寵と賜とを絶えず増加へ、日
 日に主に近かせ給へ。主よ日暮て夜となり
 ぬ、願くは我と共に宿り給へ。我と共に在し
 て我が弱を助け我をして明朝より聖旨に
 従ひて我業をなさしめ給へ。アーメン

公禱前祈文

聖堂にて公禱の始まる前、跪づき
 左の如くいぬるべし

全能の神よ。今日も兄弟姉妹と共に主の聖殿に集ひて、主を拜むことを得させ給ふを謝し奉る。主よ聖霊を降してわが思念を清め、すべての汚れたる雑思を除去り、赤心を以て主に祈り、慎みて主の道を聞き、永生に至るべき恵の賜を正しく受ることを得させ給へ。主イエスキリストによりて希ひたてまつる。アーメン

公禱後祈禱

公禱終りて散會する前に跪きて云ふべし

主よ。我等主に祈り、主の聖名を讚美し、主の恵の道を學び得しことを謝し奉る。願くは今日聽聞し教をわが心に深く植たまへ。又我等の祈りし言葉の如く、思慮にも言葉にも品行にも、聖旨に合はんとを勉め、肉體と靈魂を以て主の榮光を顯はすをイエスキリストの爲に得させ給へ。アーメン

聖書を読み又は聽く前の祈禱

主よ。聖霊の光明を以てわれを照し、みこと

ばを學び之を心に味ひて養とすることを
 得させ給へ。また高慢と怠惰と邪曲を以て
 心を頑固にする事なく、却て幼兒の精神
 を有ち、聖旨に従ひ教訓を守ることを得さ
 せ給へ。聖子イエスキリストによりて希ひ
 奉つる。アーメン
 わが磐石が贖主よ。わが口の言、心の念を、つ
 ねに聖旨に合はしめ給へ。

公會一致のため

主イエスキリストよ。主は使徒等に告て「我
 平安を爾曹に遺す、我が平安を爾曹に與ふ
 と宣へり。願くは我らの罪を思はず、主の公
 會の信仰を顧み、聖旨に合ふ一致と平和を
 公會に與へ給へ。主は父と聖靈と一體の神
 に在して世々統治めたまふなり。

アーメン

降臨節中の祈禱

大なる榮光を以て生る人と死る人を審判

せん爲に臨り給ふ主よ。苦き罪人なる我等
 を憐み給へ。主は曾て世に在して世の悪く
 苦しき有様を知り、また人の弱を知り給へ
 ば、貴き血にて贖ひ給ひし主の僕婢を憐み
 赦したまへ。主よ願くは聖靈によりて我等
 を淨め我等を強め我等を掩ひ我等を導き、
 我等をして常に主の聖公會の内に居りて
 主に見ゆる準備をなさしめ、審判の日に恐
 怖と耻辱となからしめ給へ。主よ。此の世は

悪く汚れたり、願くは速に來り給へ。主よ。疾
 く臨りて罪と死を亡し、主を信する民を永
 久の榮光ある御國に入れ給へ。主よ。疾く來
 りて我等の眼の涙をぬぐひ去り、此の朽べ
 き肉の肢體を榮光の體に化らせ給へ。

アーメン

降臨節中主日の祈禱

主よ。權力を起して來りたまへ
 主の大なる能力を以て我等を救ひ給へ

神よ。主の民の苦惱を天より照覽し、大なる
 救主を遣して、我等に附着ふ罪の轆を解放
 ち、我等をして神の子等の榮光ある自由に
 入しめ給はんとを、我等の主イエスキリス
 トによりて冀ひ奉る。

アーメン

聖職按手節祈禱

全能の神よ。工夫は少く收納物は多し、願く
 は多の忠義なる僕等の心を感化し、彼等を
 して主の招呼に應じ聖職の務を執る爲に

身をも靈をもさゝぐることをえさせ給へ。
 また願くは主に召れたる僕等をして信實
 に主の道を傳へ、善き品行によりて之を證
 し、主の民を救ひ未信者を悔改に導き、此世
 にては主の榮光を顯はし、來世には榮光の
 冠を受くるとを得させ給へ。此の祈願を聖
 子我等の主イエスキリストのために聽納
 れ給へ。

アーメン

基督降誕祝日祈禱

此の期處女マリアより生れ給ひし最聖き
 救主よ。主は我等の罪を清めんが爲に、神の
 榮光を棄て、罪の穢なく全き人となり給へ
 り。我等主の恩により再び生れて神の子と
 なることを得しを感謝し奉る。願くは聖靈
 の感化によりて日々我等を新にし、主の愛
 を以て我等を勵まし、我等をして謙遜によ
 り、信仰により、愛により、神に事へて世を渡
 ることをえさせ給へ。
 アーメン

除夜の祈禱

無始無終活て在す神よ。主には千年も一日
 の如く、一日も千年の如し。主は最深き慈悲
 を以て、聖恩を徒らにする我等の悔改むる
 ことを望み永く忍び給へり。我等今年一年の
 終に至り、殊に深く之を感謝し奉る。主よ。願
 くは過にし諸の罪を赦したまへ。また我ら
 悔改に合ふ聖き果を結ぶことをえんが爲
 に、新しき恩の力を以て新しき年を迎へさ

せ給へ。また我等をして此世の生命の無常
 ことを覺へさせ、常に警醒て主に事へ、我等
 が世に在る年齢の終らん時、永久の新しき
 國に新しき生命の曙を迎へさせ給へ。主よ
 聖子、われらの救主イエスキリストの爲に
 此の祈禱を聽納れ給へ。
 アーメン

新年の祈禱

主家を建てたまふにあらずば
 建てる者の勤勞はむなし

(詩第九十篇は新年に用ふるに適せり)

全能の神、天の父よ。萬物は聖掌の裏にあり、
 萬事は主の統治め給ふ所なり。我等茲に新
 年を迎へて、まづ過にし時に受たる恩賜と
 慈愛の爲に主に感謝し、また我等を一年の
 元始に至らせ給ひしことを喜びて主を讚
 頌へ奉つる。主よ。我等今身體と靈魂を主に
 供へ、聖手の保護に委ね奉つる。願くは年齢
 の増加はるに従ひます。恩惠の中に育

つとを得させ給へ。
 願くは此邦土を祝福し、泰平と豊年とを與へ、上皇室より下庶民に至るまで主の恩恵を蒙ることを得させ給へ。
 願くは我等の家族親戚朋友を祝福し、今年如何なる變遷も皆な其の眞の利益となるやうに萬事を聖別め攝理め給へ。
 また聖旨に合はし今年我等が營む業或は成んど欲ふ事業を祝し、事毎に主の榮光を

顯す様に導き給へ。猶ほ此一年中も我等を保護り支へ助け給ひて、年の末の來る時、主の大なる仁慈を讚美する幸福を與へ給へ。
 神よ。我等今恭しき心を以て主イエスキリストにより主に感謝し且つ必要恩恵を懇求め奉る。
 アーメン

現異邦日祈禱

地の極は皆おもひ出して主にかへり
 諸の國の族はみな前にふし拜むべし

(詩七十二篇は此の日に適當なり)

主イエスキリストよ。主は肉體となりて世に降り異邦人に拜れ、多くの兆證と異能を現した。謙遜の聖き生涯を以て神性の榮光を現示し給へり。願くは主に召れて光明に就たる我らを憐み、信仰を以て世を送り、人々の前に主の榮譽をあらはし、終に再び降り給ふ時、我らも榮光の中にあらはるゝことを得させ給へ。願くは父と聖靈と共に無窮統

治め給ふ主に榮光あらんとを。アトメン

大齋節中祈禱

四十日の間野にて禁食し、我等の爲に苦みまたわれらの忍耐の模範となり給ひし最も惠ある救主よ。この僕に自己が罪を記へ之を悲悔む心を與へ、神に歸りて罪の赦免と己に克つ力どを受くるとを得させ給へ。また今よりのち主に従ひて世を送り、終に主を愛する者の爲に備へ給ひし無量壽國

の喜樂たのしみに達いたるとを得たまさせ給へ。アーメン

聖週之事ホーリーウイークのこと

聖週ホーリーウイークとは受苦節じゆくせつとも稱へて復活日前よみがへりひぜんの一週間いっしゅうかんなり。聖公會年曆中せいこうかいねんれきちゆうちゆう最も嚴肅げんしゆくに守るべき時節ときせきとす。此の一週間このいっしゅうかんは殊に祈禱書しよたうしょに定めある使徒書福音しとくしよふくいん書及び當日の特禱とくたうをもちひ、詩二十二篇しにじふにせん、六十九篇ろくじゆうせん其他聖週用の讚美歌そなたせいしゅうようのさんびかなども用ひて、此の一週間このいっしゅうかんの出來事に就き默想もくさうと祈禱いのちを勉むべし。而して殊に罪を糺し之を悔くやみ悲かなむ心と新せいき生活くわつの決心けつしんを起し、主イエスキリストの救贖すくひの恩澤めぐみを蒙らんが爲

に日々聖餐せいさんを受る準備そなへを爲し、復活日いすたーには全く安やすき心こころと信仰しんかうと愛あいとを以て、之を受るうるを期すべし。又聖週中は勉めて聖堂せいだうに集り禮拜らいはいと教訓をしんによりて心靈こころの益えきを受くべし、また密ひそかに教職けうしよくを訪ふて信仰しんかう上の助たすけを求るも望のぞましき事なり。

聖週内の月曜火曜水曜の三日間せいしゅうないのげつえうくわえうするえうのさんじつかんに

用ふる禱もちふるいのち

活いる神かみの聖子こしよ、主しよイエスキリストよ。主は我われ等の救贖すくひの爲ために甘んじて世よに生うまれ、割禮けうらいを

受け、ユダヤ人に棄られ、ユダによりて售れ、
 捕へられ、縛められ、アンナス、カヤバ、ヘロデ、
 ピラト等の下に引れ、杖撲と蘆を以て、拳と
 掌を以て、愚弄れ打れ給へり。また聖顔に唾
 せられ、棘の冠をかむらせられ、偽の證人に
 訴へられ、罪に定められ、死に就く羔の如く
 十字架を負ひ、手足に釘打れ、飲物には酸と
 苦根を與へられ、十字架の上に最も耻べき
 死を遂げ、鎗にて傷けられ給へり。あゝ主よ

願くは此等の聖き御苦楚によりて諸の罪
 と刑罰より我等を救ひ給へ。また主の聖き
 十字架によりて、苦しき罪人なる我等を憐
 恤み、時晩れて悔める盗人をすら主と偕に
 導き入れ給へる場所に、我等も達ることを
 得させ給へ。
 アーメン

聖週木曜日祈禱

主イエスよ。主は聖能の秘妙たる作用によ
 り、主を信する者を主と一に合せ、主彼等と

一になり給はんが爲に、此日聖き「サクラメント」を設て給へり。願くは我をして常にこの恩賜を受るに適ふ者とならしめ、主の最聖き肉體と血の靈なる糧によりて養はれ、主の恩に充され、主の活て在す如く、我も永久に活るとを得させ給へ。父と聖靈と偕に無始より無終に一體の神にて在す主よ。主の御功蹟によりて此の祈願を聽許し給へ。

アーメン

受苦日用祈禱

全能の神永遠の父よ。主は我らが猶罪人たりし時、聖子を世に降して十字架の苦楚と死により贖罪を成就し給へり。主よ。此の無量慈愛のため聖名を讃め頌へ、主に感謝し奉つる。あゝ神よ。卑き僕は仁慈の深さを悟る能はざれども、聖子の死は我が永生の爲なりしを信ず。我は世にありて主の仁愛に酬ゆべき祭物を有す、唯だ身と魂を獻げた

てまつる。願くは今日に至るまで朽果べき
 世と肉とに自己を獻げて私慾に日を送り
 たる我罪を赦免し給へ。救主イエスキリス
 トによりて希ひ奉つる。アーメン
 尊き神の子イエスキリストよ。主は我が爲
 に苦楚を忍び十字架の上に、我が罪を負ひ
 給へり。あゝ我が罪は主を此のろひの木に
 釘打つほどに深くまた大なり。願くは主の
 功德にて我に赦免をあたへ。今よりのち汚

たる思念、邪惡の欲望を殺し、言葉にも行に
 も聖くなりて、再び尊き主を辱しむること
 勿らしめ給へ。また常に主の無量愛に感激
 して、主が最畏こき苦楚と死によりて成就
 げたまへる救の恩を空くせず、赤心を盡し
 て主を愛し、自己を獻げて聖旨に従ふこと
 を得させ給へ。願くは父と聖靈と共に無始
 無終活て在す主に榮光あらんことを。

アーメン

又

萬民の救拯を望み給ふ天の父よ。願くは聖靈を降して我が言と行を聖別め、聖子イエスキリストによりて成就せ給へる和平と生命の道を證し、我が力に應じて福音の恩に人々を導くことを勉めさせ給へ。

アーメン

復活日前夜祈禱

至聖き主イエスキリストよ。主は我等の爲

に死て葬れまた復活り給へり。願くは我等の悔改を全ふする恩恵を與へ、罪に死に義に活て、主の榮光ある復活の大なる喜樂に與る準備をなすことを得させ給へ。

アーメン

復活日祈禱

聖き死と榮光ある復活を以て惡魔に勝ち死の權を碎き給ひし主イエスキリストよ。願くは聖靈を以て我が心靈を振起し、罪に

死に義の新なる生命に更生、靈魂と肉體を
 主にさへぐることを得させ給へ。また願く
 は「バプテスマ」を受けて主の死に與りたる我
 をして、主の能力によりて永久に主の榮光
 の中に主を讚美することを得させ給へ。

アーメン

昇天日用祈禱

榮光の主イエスよ。主は死と陰府に克て天
 に昇り天父の右に坐し給へり。願くは此の

しもべ正しく聖餐に陪り、榮光を受け給へ
 る尊き主の體と血に與かり、又此の秘義な
 る恩恵によりて世と肉の汚穢を離れ、精神
 と靈魂にて主と共に天の所に坐すること
 を得させ給へ。父と聖靈と無始無終一體な
 る主に懇願ひたてまつる。アーメン

聖靈降臨日用祈禱

我が心のうちに臨住り、わが良心によりて
 諾宣給ふ最も讚美奉るべき聖靈なる神よ。

主は「バプテスマ」の時我を清淨くし給へり。
 願くは無終我を聖潔保存ち、我心裏に語り
 給ふ聖聲に反逆ふとなく、罪により主をし
 て憂しむると勿らしめ給へ。又總の邪惡と
 戦ふ力を與へ、常に主の御助を頼みて、主の
 殿なる我肉體を守り、肉の慾によりて褻瀆
 さるゝとなからしめ給へ。主よ願くは主に
 反逆ふ諸罪を赦し常にわが中に住り給は
 んとを、イエスキリストに頼て希ひ奉る。

アーメン

三位一體主日用祈禱

聖なる哉、聖なる哉、聖なる哉、萬軍の主

主の榮光は全地に充てり。 ハレルヤ

至聖き神、父と子と聖靈なる主よ。主は我ら
 を造り我らを贖ひ我らを聖め給へり。主は
 我らに主の畏き御本性の奧義を示啓し給
 ひしが故に、我らを守りて正しき信仰と聖
 き畏敬の中に堅固く立しめ、種々の迷妄の

風に動さるゝことなからしめ給へ。元始も
今も窮なき世にも一體に在す主に榮光あ
らんことを。
アーメン

聖徒祝日祈禱

聖行を以て主に事へ、今主と共に樂しき安
息所に居る主の聖徒に賜はりし恩惠の爲
に、主なる神に榮光を歸したてまつる。神よ。
願くは我も彼徒の行爲の跡をふみて、罪と
戦ひ之に克つ惠を與へ給へ。又祈禱と克己

能力を有ち給ふ聖靈を降し、常に自警醒み
罪によりて主に逆ふとなからしめ給へ。主
よ。願くは現世にて忠實に主に事へ授られ
し天職を盡し來世には主の聖徒と共に主
の榮光ある聖國に住むことを得させ給へ。
イエスキリストにより希ひたてまつる。
アーメン

變容貌日用祈禱

神よ。主の獨生子が聖山の上にて其衣白く

輝き顔の相奇しく變りし時、之を仰見ること
 とを選ばれし證人らに許容し給へり。願く
 は我らを憐み、此世の憂慮より離れて我が
 主の美はしきを仰見ることを得させ給へ。
 聖子は父と聖靈と一體の神に在して世々、
 統治め給ふなり。アーメン

信徒按手式を受領る前の祈禱

最憐恤深き神よ。主は曩に我罪惡の赦免の
 爲に、聖き「バプテスマ」の水をもて我を洗淨

め給へり。この大なる恩恵を感謝し奉る。願
 くは主の僕監督の按手によりて主に近か
 んとするわれを憐み、誠に罪を悔る心を與
 へて、我が犯せし罪より我を清め給へ。又自
 己の罪おほく弱きことを悟らしめ唯主に
 のみ依頼せしめ給へ。またわが生命終るま
 で主に事ふる靈の恩賜を聖き心にて受け
 得るやうに我心を豫備へ給へ。救主我等の
 主イエスキリストによりて希ひたてまつ

る。

アーメン

誕生日の祈禱

全能の神よ。主は我をして暫時此世にをらしめんが爲に、母の胎より産れ出しめ給へり。我今日この恩恵を紀念し深く感謝し奉つる。願くは今日に至るまでしばく主の恩を徒らに受て、聖慮にそむさし罪を赦し、今日此の誕生日のめぐり來れる日に於て、新に生れし者の如く、新しさ生涯を始め、世

を去りてのち、再び地の胎内より甦へらん時、清く汚なき姿となりて、永久に主と共に活るをえさせ給へ。主イエスキリストによりて希ひたてまつる。アーメン

附言。此祈禱の我れを彼れさする時は家族、親戚、朋友等の誕生日に用ふるを得べし

婚姻せんとする者の祈禱

全能の神よ。我れ主の恩寵により、聖き婚姻式によりて我が生涯の境遇を變じ、キリス

トと其の公會との一致を表す奥義の地位に上られんとす。願くは今我と(何某)とを祝し、我が罪と弱とによりてこの婚姻を誘惑と悲痛の器となすことなく、却て主を畏る人の爲に與んとし給ふ幸福と慰撫に與かることを得させ給へ。此の願を主イエスキリストに由て冀ひ奉る。

既婚者の祈禱

代他禱中「夫或は妻の爲の禱を見よ」

旅行者用祈禱

全能の神よ。主は往時イスラエル人を守りて、平地を行くが如くに紅海を通らせ、博士たちを導きて東の國よりダビデの邑に至らせ給へり。願くは我を守り導きて平穩に幸福なる旅路を爲し望む所に至らせ給へ。また此世の生涯の移變り行く旅路に於ても常に助力と安慰をあたへ、恙なく天の故郷に達することを得させ給へ。主イエスキリ

ストによりて希ひ奉つる。アーメン
 願くは全能の神、我が出ると入るとを守り、
 今よりのち永遠にいたるまで我を護り給
 はんことを。願くは主其使等に命せて、わが
 歩む諸の道に我を守らせ給はんことを。

アーメン

詩九十一篇、百二十一篇及びザカリアの頌は
 旅人に適する詩頌なり

憂苦ある時の祈禱

慈悲の父、全能の神よ。主は愛する者を懲し
 めまた納る所の子を鞭ち又最も善賜を我
 らにあたへ給ふ。主よ。今われ憂苦(又は患難)
 の中にありて、其重荷の下に苦しめり。主よ。
 願くはわが罪を赦免、我を憐みたまへ。主よ。
 聖旨に合はし此杯を我より取離し給へ。さ
 れど、もし我が此苦惱を忍ぶことを聖旨に
 善とし給はし、我が弱く賤きことを思召し
 て我を奨勵し、我を慰め、此十字架を負ひ得

べき力を添へ給へ。救主イエスキリストの
仲保によりて希ひ奉つる。アーメン

此外「新禱書」五十六頁及び五十八頁の新禱も
適當なり。又詩廿五〇一、五、十、十一。五十七〇一。
五十五〇一、二。廿五〇十六―廿一。卅一〇一―
六。七十三〇廿四―廿六等は黙想と短き祈念
に適す。

病者の用ふる祈禱

詩第七十一篇を唱へたるのち、主禱文を唱へ、
また左の禱を用ふべし

主よ、天より照覽して、この僕を憐み給へ。願
くは主の慰撫を我にあたへ、主を頼む心を
我がうちに固し、我に仇なす者の害を防ぎ
給はんことをイエスキリストによりて冀ひ
奉つる。アーメン
全能の神、憐ある救主よ。病に惱む我が禱を
聽召し、平生の如く聖恩を降して、慈悲深き
父の聖手より受くる此の懲戒を喜びて忍
び、益おのれの弱を知り、悔改の心を強くし、

信仰を固くして主を待望むことを得させ
 給へ。若し聖慮に合ば我に平愈の喜をあた
 へて、新しき生命の道を歩み、榮光を顯すと
 をえさせ給へ。また我が世を去ると若し聖
 慮に於て可と見給ば、平安に靜に聖旨に従
 ひ、此の世の生命終りしち永久の國に入
 しめ給へ。神よ。主イエスキリストの爲に此
 願をさし納れ給へ。

聖き死を求むる禱

アーメン

最聖き神、最強き主、最憐恤深き聖き救主よ。
 我れをして限りなき死の苦艱に至しめ給
 ふ勿れ。主よ。我を救して我が世を去る時、死
 の苦惱の爲に主を離ると勿しめ給へ。

アーメン

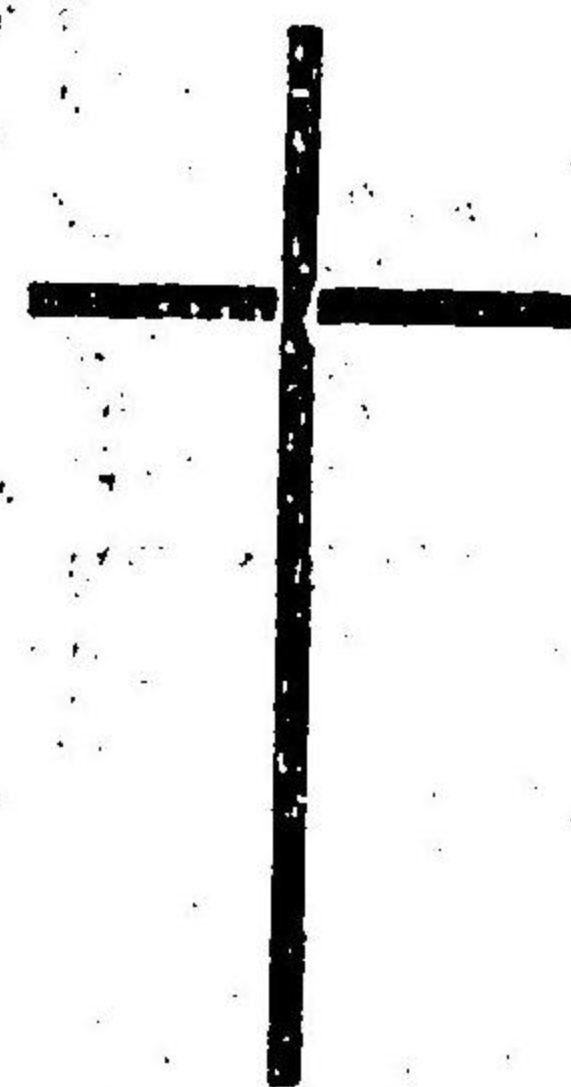
今より後ち、主にありて死る死人は幸なり。

救主イエスよ。主は我等罪人の爲に十字架
 の上に苦み給ひしち、聖き靈魂を父の御
 手に托け給へり。今此の事を記憶へ給ひて、

此の賤しき僕を憐み慈悲の御手の中に我が
が靈魂を受け給へ。主は父と聖靈と一體の
神に在してかぎりなく統治め給へばなり。

アーメン

主よ諸の信者の靈魂と共に、我を永久の安
息に入れ給へ。
アーメン



居喪者の用ふる祈禱

但し死せし人未信者なる時は之を用ふ可ら
す

無窮活て在ます全能の神よ。主は主の僕(何
某)を此の姦悪と世の苦痛と死の肉體と諸
の誘惑より解放ち、彼が主に委ね奉りし其
靈魂に安息と安慰を與へんとて、聖き御手
に受け給へり。故に彼の爲に感謝し聖名を
讚美奉つる。願くは終の日一般の復活の時、

主の撰み給ひし者と共に彼をも復活らせ、我等を彼等と共に、彼等を我等と共に「我父に恵る者よ、世の元始より爾曹の爲に備へられたる國をつげよ」どの福なる聖言を聞せ、主の福なる約束を受けしめ給へ。我等の主イエスキリストの仲保によりて冀ひ奉つる。

主イエスキリストよ。主は人々が主の天に昇るを見たる其の如くまた來らんと約し

給へり。願くは主よ、速く來り給へ。疾く來りて罪と死を亡ぼし、我等をして主を信じて世を去し人々と共に天國の幸福を嗣ことをえさせ給へ。永久に活て統治め給ふ頌讚たてまつるべき神よ。此の祈を主の慈悲によりて聽納れ給へ。

アーメン

左の短き祈禱は日々用ふるもよし

神よ。主の僕なる何某の靈魂をして、主を信じて眠れる一般の聖徒と共に、主の平安の

うちに安息しめ給へ。

アーメン

嬰兒の死せし時は左の祈禱をなすべし

主イエスキリストよ。主は曾て嬰兒を抱き且つ之を祝したまへり。願くはこの嬰兒をも聖き御手に受けて、主が彼に「バプテスマ」の「サクラメント」の後、直に汚染なき道を開通らせ給へる如く、彼に主の御前に在る永久喜樂の充るものを與へ給へ。主は父と聖

靈と共に世々窮なく活て治め給へばなり。

アーメン

信徒の墳墓を訪し時は左の祈禱を用ふるもよし

憐恤ある父よ。我等の愛する(兄弟)の地に屬する遺骸をして、こゝに靜穩なる所を得させ給へる如く、其の靈魂をして神の「パラダイス」にて安息と平安を樂ましめ給へ。又我等の主イエスキリストが世を審判せんとて

再び降り給ふ時、諸の聖徒と共に榮光ある復活を受けしめ給はんことを、聖子我等の救主イエスキリストの功德によりて冀ひ奉つる。

アーメン

或は左の短き祈禱のうち一を誦

ふべし

主よ。彼に窮なき安息をあたへ、永久の光を以て之を照し給へ。

アーメン

又

主よ。彼を主の平安のうち眠らせ、喜ばしき復活のうち醒むることを得させ給へ。

アーメン

臨時用祈禱 終

代他祈禱

爰に掲ぐる祈禱は私禱の時、或は公禱殊に聖餐式の間、または其の前後にも、苟も用ふべき機会あらば、他人の爲に祈るべき事件を撰びて、信者の本分を盡す便に供するものなり。

聖公會の爲の祈禱

全能の神よ、願くは、此國に在る聖公會の働

代他祈禱 聖公會のため

勞を助け、監督教職傳道師に聖靈の恩恵を
 降し、聖名の榮光と靈魂の救との爲になす
 彼等の働勞を隆昌ならしめ多數の未信者
 を主の群に加へ給へ。願くは主を信する諸
 の人に終まで忍ぶ勢力を與へ、終に天國の
 幸福は入ることをえさせ給へ。われらの主
 イエスキリストに頼て希ひ奉る。

アーメン

傳道事業の爲の祈禱

天の父よ。聖子イエスキリストは我等に語
 て、工夫の收納場に遣られんことを祈るべ
 しと命じ給へり。願くは此邦の人々が主の
 道を信じ救れんが爲に、教師傳道士を増加
 へ給へ。また今日主の聖名に事ふる監督教
 職等に恩と祝福を充し、主の教を宣傳へ、主
 の「サクラメント」を正しく行ひ、忠義に熱心
 に其務を爲すことを得させたまへ。又願くは
 信徒の心を感化し、喜びて應分の寄附をな

し、此の事業を助け、共に天國を擴むること
を得させたまへ。主イエスキリストにより
て冀ひ奉つる。アーメン

教會の爲の祈禱

全能の神よ。願くはこの教會を憐み、聖靈を
降して信者の心を照らし、聖淨と智慧と平
和と愛とを充し給へ。また我等をして熱心
に祈ることを習はせ、力を協して相助け、信仰
を堅くして共に進み集會を怠り相妬み讒

ることなく、主の教會たるに合ふ善き行爲
によりて、主の榮光を顯はし、主の福音を傳
へ、人々を救拯に導くことを努めしめ給へ。我
儕の救主イエスキリストにより希ひたて
まつる。アーメン

皇室の爲の祈禱

全能の神よ。我邦を統治むる 天皇陛下と
皇后、皇太子、皇太子妃其他の皇室に天の祝
福を降し獨一の眞神と世の救主イエスキ

リストを信じ、聖旨に従ひて主の道を歩み、
健に昌んに壽く、終に永久の生命の國を嗣
とをイエスキリストの爲に得させ給へ。

アーメン

父母の爲の祈禱

神よ。主は父母を敬ふとを我に命じ給へり。
願くは我が父母を憐み給へ。我が爲に今日
まで受たる患難と憂慮の爲に、主の祝福を
彼らに降し彼等をして現世には主の恩に

充され、來世には永久の國に樂むことを得
させ給へ。此の祈願を主イエスキリストの
爲に聽し給へ。

アーメン

夫或は妻の爲の祈禱

聖き婚姻式を以て我を我が(妻)に結合せ給
ひし神よ。恩を以て我等を助け、主イエスキ
リストが其の教會を愛し給ふ如く、我等も
聖き愛を以て互に愛することを得させ給
へ。願くは我が(妻)を憐み眷顧み、斷ず守護と

教導を與へ給へ。また我等現世にては借に
活き、主が授け給へる子女を教育し、相助け
て主に事へ、來世には借に主の御國を嗣こ
とを、イエスキリストの爲に得させ給へ。

アーメン

子女の爲の祈禱

主よ。恩賜によりて授けられし我等の子女
は「バプテスマ」によりて主に供けし者なる
が故に、之を祝し護り給へ。また我等に智慧

と分別を與へ、我等の教訓と模範により、主
に在て之を育て、成長の後には主の忠義なる
僕となり、主に事へて聖名に聲譽を歸する
者となさしめたまへ。主イエスキリストに
よりて冀ひ奉つる。

アーメン

家族の爲の祈禱

神よ。我が家族を憐み、我が家を祝ひ給へ。願
くは總ての妬忌分争其他の惡を除き、世の

與へ得ざる主の平安と天の聖き和氣を充
 し、また諸の禍災を防ぎて安穩に世を送り、
 心を一にして主に事ふるとを得させ給へ。
 主イエスキリストによりて希ひたてまつ
 る。 アーメン

未信者なる家族朋友の爲の祈禱

天の父、全能の神よ。願くは我が家族と諸の
 朋友を憐み給へ。彼等を一切の悪より離れ
 しめ、一切の眞理に導き、彼らをして主イエ

スキリストを知り之に従ひ、キリストの御
 徳によりて神の家に入れられ、終に主と共に
 無窮天國に住ふとを得させたまへ。此願を
 イエスキリストに由て冀ひ奉つる。

アーメン

病人に代りて爲す祈禱

依頼べき所なき時に、獨一の保佑主なる
 血の聖父、凡の慰藉を與へ給ふ神よ。病る主
 の僕の爲に、われら主の御許に奔りて、救助

を與へ給はんことを希ひ奉る。主よ、願くは彼
 のうへに臨視み、愛憐を以てこれを顧み、主
 の慰を降して、其心裏に主の恩を悟らしめ、
 又悪魔の誘惑より保護り、苦惱を忍ぶ心を
 與へ給へ。願くは父よ、聖旨に合へる時に平
 愈をあたへ、自今主を敬ひ畏れて世をわた
 り、主の聖名の榮光を顯はすことを得させ
 給へ。若主の聖旨に此僕をして、長く現世の
 艱苦に居らしめ給はずとならば、忍て主の

懲誠を受け、苦惱しき此の生命を終てのち、
 無窮生命の國に入り、主と共に在らしめ給
 へ。此願を我等の主イエスキリストに頼て
 希ひ奉る。 アトメン

信徒按手式を受んとする人に代りて
 爲す祈禱

無限く活る全能の神よ。信徒按手式を受ん
 どて其預備を爲す諸人別て(何某)を恵み給
 へ。願くは彼等主の僕監督の祝福をうけ、主

の聖靈によりて強められ、十字架に釘られしキリストを信する信仰を公認すを耻す、却て其旗下に在て罪と世と悪魔に對して勇しく戦ひ、生命終るまで主の忠義なる兵卒、また僕たるを得んが爲に、彼等をして無汚肉體と警醒る心と純聖思情を以て斯聖禮に近かしめ給へ。この願を我等の主イエスキリストによりて希ひ奉つる。

アーメン

信徒按手式を受領たる人の爲になす
祈禱

無限活る全能の神よ。既に聖き按手の式を受領ことを許されたる人々別て(何某)の爲に感謝し奉つる。願くは彼等のうへに慈父の聖佑を斷さず、聖靈常に彼等と共に在し、いよ、神と聖子イエスキリストを識り、永遠生命に達らせ給へ。我等の主イエスキリストによりて希ひ奉つる。アーメン

洗禮志願者の爲になす祈禱

諸て聖佑をねがふ人をすくひ、信する人に
生命を與へ給ふ天の父よ。主の聖き「バプテ
スマ」を求る人々をして、正しく其豫備をな
すとを得させ、諸て主の聖なる道の恵を受
させ給へ。聖子イエスキリストによりて希
ひ奉つる。アーメン

旅行者の爲の祈禱

在さるる所なき全能の神よ。大なる能力を
以て、旅行中なる(何某)を憐み護り、海陸の危
難を免れ、主の保護を覺りて常に平和と慰
撫に充され、また恙なく其家に歸らしめ給
へ。イエスキリストに由て希ひ奉つる。アーメン

罪を犯し居る人の爲の祈禱

九十九の義人よりも一人の罪人の悔改む
るを喜び給ふ神よ。信仰を棄て恩を空くし
(顯著なる罪の中に日を送り居る(何某)を憐

代他祈禱 罪人のため

百四十八

み、其心を感化し、悔改めて主に歸らせ、其罪を赦免て主に事ふる恩を興へ給へ。罪人の爲に死て贖罪を全くし給ひし聖子イエスキリストによりて冀ひ奉つる。アーメン

代他祈禱終

聖餐式前の準備

爾曹このパンを食し此杯を飲むに及ぶなり。然ば宜に合すして此パンを食し主の杯を飲む者は主の體と血を干すなり。人みづから省みて後ち其パンを食し其杯を飲むべし。

哥林多後書十一章二十八節

聖餐式前の準備 聖句

百四十九

訓話

聖餐を受くる豫備の必要なるとは、固より明にして長き説明をなすにも及ばぬ事なり。此「サクラメント」を受くるに當り、主イエスは其愛を以て我等に來り、我等の心の戸を叩き給ふと思ふ者が、主を入れまつるべき住所の豫備を爲すは當然なり。我等此く聖く仁愛ある、大なる客人をむかふる備を爲さずして可らんや。

借豫備とは、長く數多き祈禱をなし多の書をよむとはあらず。ある人は其煩多しき職業の爲に、多の長き祈禱を爲し多の書物をよむと能はざるなり。聖書の中に、盲人がキリストに祈りし時は、唯「ダビデの子イエスよ、我を憐み給へ」と云ふ短き言葉なりしが、其言葉は赤心より出しゆゑ、キリストは之をきゝて見ことを得させ給へり。我等の豫備も亦同じことに

て若し熱心に祈る時は短くとも神の前に至るべし。又我等は良き義き人となりしのちに、始て豫備せりといふにあらず、義人となりて「サクラメント」を受けんと思ひ居らば、終に主に近くこと能はざるべし。我等は吾儕の罪を負ふてキリストの所に至るべし。キリストの尊き血は之を洗ひ清め給ふなり。然れば如何なる豫備を爲すべきか。キリストは人の心に三

のもの、備はらんことを望み給ふなり。即ち悔改と信仰と愛と是なり。

悔改とは、心の變化にして己の既往し罪を悔み、未來の生涯を聖くせんと欲ふことなり。若し人に悔改むる心なくば、イエスが與へ給ふ清めと助力とを求むること能はざるべし。

信仰とは、神の道に疑問を起すことなくして信じ、キリストは聖餐のとき、人の心

に來り、其肉と血を以て靈魂を養ひ給ふ
 ことを確く信することなり。主イエスは
 其約束を信せざるものに是等の恵を賜
 はざるべし。
 愛とは人のよく知る所なり。若し我等神
 と人を愛することなくして、心の中に人
 を怨み悪む等の不親切なる思慮を抱く
 心あらば、愛に充滿たるイエスキリスト
 を入れまつるべき位なかるべし。

聖餐式を受んと思ふ日の二日前より
 左の祈禱を爲しまた次の如く心に省
 み糺すべし

全能の神よ。諸ての人の心は主に顯はれ、諸
 ての望は主にしられ、諸ての密事は主に隠
 る、事なし。願くは聖靈を降して我心を照
 し、主のわれを知り給ふごとく自己の状態
 を知り、罪を認め、之を悲悔む力を與へ、主
 エスキリストの體と血の聖き「サクラメン

ト」を正しく受んが爲、自ら欺くと勿らしめ給へ。

アーメン

○自ら糺す人は左の句を静に讀み、一句づゝ自ら省て己の罪を採知るとを勉め、嚴く自ら責め悲みて之を懺悔すべし。また祈禱の後に詩五十一篇若くは六篇、二十五篇、三十二篇、三十八篇、八十六篇、百三十篇、百四十

三篇等の中一篇を用ふべし。

自糺の語

- 我はわが過去の罪を誠に悔み居るか
- 我が犯し易き格別の罪に就て
- 祈禱を怠り若くは心を用ひずして祈る罪に就て
- 神の恩を感謝せざる罪に就て
- 祈禱中種々の雜慮をなして之を制止せ

○ ざる罪に就て
○ 主日其他の聖日を勉て守らざる罪に就

て
○ 神を拜む時不敬虔罪に就て

我は如何なる悲痛と悔改を爲し居るか

○ 我はわが職分を怠りしとなきか、信者の

義務を輕忽にせしとなきか

○ 我は故なくして怒りしとなきか、妬忌な
きか、譏らざりしか、穢れたる事を思ひ又

は、行ざりしか、不正直なるとなかりしか
偽り欺きしとなきか

○ 我はわが諸の罪を悔みまた之を改めん
と勉め居るや

余は確く心を決して新なる生活をなさんと
力を盡しつゝあるか

○ 我は……の罪に克ん爲に神の恩を祈り
居るや

○ 我は罪に誘はるべき場所、言語、思念に遠

○ 我はわが「バプテスマ」の約束を心に記憶

し、また常に神の恩によりて此の約束を

成就するのを怠らざるか

○ 我は祈禱を熱心になし己に克つとを勉

め殊に……の罪を制するに力を盡すか

○ 我はわが時間、談話、思慮に就き十分の注

意を爲しつゝあるか

○ 我は應分の金銭を教會に納め貧者に施

し其他善事に財を用ふるを勉め、殊に

教會への寄附金を成るべく増すとを心

がくるか

○ 我はキリストの功德によりて神の慈悲

を受るとを確信し居るか

○ 我はキリストの降世十字架の苦死、復活、

昇天は皆な神の限りなき慈愛なることを

確く信じ、且つキリストの仲保と聖靈の

能力とを疑ふとなく之に依頼むか

○我はイエスキリストの全き神且つ全き人なるを信ずるか。また主の死は罪の全き贖償たることを疑はざるか

○我はイエスの死と其の功德によりて熱心に祈るか

○我が犯しし罪は、みなキリストの十字架に逆きて犯ししものたることを心に知るか。また我は此の十字架の外に罪の赦免を受べき所なきを知るか

○我はキリストの愛を最も深く感謝しつゝあるか

○我は人を喜ばせんが爲に聖餐禮を受るか、または神の獨子イエスキリストは誠に我が糧となり清めとなり能力となりんが爲に、其肉と血を與へ給ふことを信じ、信仰を以て此「サクラメント」を受け秘義なる方法にて其の肉と血を受ること
を眞實に求めて、之を受ることを欲ふか

○ 我は聖書を神の言葉として之を読み之に従ふことを勉むるか

○ 我は神と人を愛するか、他人の罪を救すか

○ 不親切、不和、分争、憤怒、嫉妬等をなさざりしか

○ 我は我が身分に應せぬ罪ある願望を有ことなきか

若し以上の法によりて心を糺し罪を懺悔し赦免を求むるも、猶ほ心に穩ならぬことあらば慰と教をうけんが爲に牧師または他の教職の許に至り、密に面談を求めて之を告げ其の助力を乞ふべし。

ROCK OF AGES.

一 ちとせのいはよ わがみをかこめ
さかれしわきの ちしほとみづに

つみもげがれも 　　あらひきよめよ
 二 　かよわきわれは 　　おきてにたへず
 　　もゆるこゝろも 　　たぎつなみだも
 　　つみをあがなふ 　　ちからはあらず
 三 　　じふじかならで 　　たのむかげなき
 　　わびしきわれを 　　あはれみたまへ
 　　みすくひなくば 　　いくるすべなし
 四 　よにあるうちも 　　よをさるときも
 　　しらぬよみにも 　　さばきのひにも

ちとせのいはよ 　　わがみをかこめ

聖餐準備の祈禱前に用ふる

日課及詩

(一)馬太廿六〇廿六より廿八、約翰六〇四十
 七より五十一及び詩卅二篇 (二)約翰六〇
 三十二より三十五及び詩六十三篇 (三)哥
 林多前書十一〇廿三より廿五 (四)約六〇
 五十三より五十六及び詩百十九篇三十三

より四十八 (五)哥林多前書十一〇廿六より廿九、同十〇十五より十七及び詩八十四篇 (六)哥林多前書五〇七、八、以賽亞五十三章及び詩百四十三 (七)哥林多前書十〇一より六、羅馬五〇八より十一、希伯來十三〇十より十六及び詩八十五

聖餐式前の祈禱

聖餐禮を受る二日前より日々

この祈禱を唱ふべし

最惠深き神よ。この僕は主の聖體と血の「サクラメント」を受るに足ざる者なれども、主われを招き給ひしを感謝し奉る。願くは正しく主を受け奉らんが爲に、わが肉體と靈魂を豫備ふことを得させ給へ。又既往罪惡

を誠實に悔みて、我らを救はんが爲に十字
 架の上に死に給へる主を信じ、主を喜ばせ
 奉らんが爲に、すべて我に罪を犯す人を宥
 免す誠實の愛を與へ給へ。主よ。我に來り、わ
 れを清め、我を愈し、我を強壯たまへ。又願く
 は主をうけし後も、主を忘れず主を離隔す
 して、反て聖意をよるこばせ奉り、永遠主の
 臣民となることを得させ給へ。アーメン

聖餐禮をうくる朝其始まるべき時

刻より少はやく會堂に入て聖餐禮
 を受る前にこの禱文をとなふべし

○詩四十二篇を跪きてとなふる
 をよしとす

全能の神、永久生る父よ。われは聖子我等の
 主、イエスキリストの聖體と血の聖なる「サ
 クラメント」に近かんとす。神よ我は病て生
 命の醫師に來り、不淨に染て慈惠の生泉に
 來り、盲心にて永遠榮光の光に來り、貧賤し

て萬物の主に來る。故に王の王主の主なる
 神よ。願くは我をして主の慈憐を信じ、清心
 にて主の聖旨をかしてみ、罪を悲み謙遜る
 心を以て眞實のパンをうくることを得さ
 せ給へ。主よ。今わが不淨を洗ひ、わが暗を照
 し、赤貧われを富し、裸體なる我に被せ給へ。
 神よこれらのことを、聖子われらの主イエ
 スキリストによりて希ひたてまつる。

アーメン

最も仁愛深き父よ。未來世に於て主に見え
 奉つらんが爲に、この最も聖なる「サクラメ
 ント」に依て茲に聖子を受るとを得させ給
 へ。聖子は父と聖靈と一體の神に在て世に
 無限活て司配り給へばなり。アーメン
 附曰。聖餐禮を受る度數に就て種々の説
 あれ共、往時の信者は毎日うけしことあ
 り。或教會より聖オーガステンに書をお
 くりて聖餐禮は毎日うくべきや毎日曜

日に受べきやと問ひしに、オーガステン、
 答て汝曹の靈魂に必要と信するに従ふ
 べしと曰へりと云ふ。抑此の「サクラメン
 ト」は恵を受る道又眞の糧食なり。食物は
 一度大食して幾日も絶食すること能は
 ず。若し斯の如くする時は却て害あるべ
 し。斯の如く一度「サクラメント」を受くれ
 ば一月も一年も受けずしてよしといふ
 理は萬々なきことなり。畢竟人の怠慢と

罪過とは聖餐禮より人を遠くるものな
 り。故に豫備なくして之を輕忽にうくる
 も危く、謹み受も屢ならぬは誤れり。あゝ
 人もし眞正の悔改と信仰と愛とを以て
 正しく屢之を受なば、その幸福はたして
 幾何ぞや。

聖餐禮の後に感謝すべき事

この「サクラメント」を受くる前に心を豫備へ、イエスキリストを迎へ入る爲に、悔改を以て心を清め、信仰を以て之を飾り、愛の香油をそゞぎて、天の賓客を待遇すべきことの必要を勧めしが、聖餐禮を受けし後に感謝することも亦同じく必要なり。然れど人は乞食に比しく、受くることを知りて謝することをお怠るものなり。

幼きときも小き手を出して物をほしが、る事は直に習へ共、ありがたふと謝することを知るは容易ならず。われらも困難の時は熱心に祈りて、神の助と恵を求めむれども、困難去り、苦痛退けば、直に神の助と恵を忘れて謝せざると屢なり。豈神の恵に狎れて、之を忘るものと謂はざるをえんや。若し我等受くる前に充分の備を要するならば、受けし後に充分の感謝を

なすべきは勿論ならずや。
 昔時十人の癩病に罹りたる者、キリスト
 に祈りて清めを得しが、其中一人のみ歸
 來りて謝せしかば、イエスは「外の九人は
 何所に在るや」と曰給へり。神は感謝する
 者を愛して、恩に感せざる人の爲にかな
 しみ給ふなり。イエスも使徒等も聖餐の
 後橄欖山にゆく道すがら感謝の詩をう
 たひたり。夫れ聖餐禮に於て受くる恩は

大なり。キリスト我が罪を洗ひ、我に來り、
 我を養ひ、我を強め、永生に至る恩を與
 へ給ふなり。我等此大なる恩を受けなが
 ら、感謝することなくしてよからんや。故
 に祈禱書にも感謝することを勧め、又感謝
 の祈禱をも載せたり。聖餐禮の事を一に
 「エーカリスト」ともいふ。即ち感謝の祭と
 いふ義なり。此名のあるにても感謝すべ
 き道理を知り得べしと思はる。

我等が感謝を怠るは何故ぞや。第一、我等は恩を恩と思はぬ心あり。第二、聖餐禮の貴きことを深く感ぜざる故なり。若し我等キリスト眞に來り給ふを信せば、謙遜り慎み、赤心を以て感謝せざるを得んや。我等は感謝を怠るに従ひ、神の恩を益輕んじて神に遠かるに至らん。之に反して赤心より深く感謝する事をなさば、神の恩を常に心に覺へて、益信仰と愛と清潔

にすゝみ、神我等に在し、我等無限神の民とならん。我等の感謝は長き祈禱や、言葉の數多きを貴ぶにあらず。神はすべての人の思と望どを知り給へば、長き祈をなすも、若し心より出ずば無益なるべし。神は只赤心より出たる感謝を喜び給ふなり。故に我等よるしく先神の恩キリストの愛の如何に大なるかを考へ、其の深き愛と恩を

心に感じて、赤心より之を謝し奉るべし。
 神は必ず我等の感謝をさして恩に恩を
 加へ、我等をして益神の恩とキリストの
 愛の深どを知らしめ給ふべし。

ABIDE WITH ME.

- 一 ひくれてよもはくらく
 よるべなきみのたよる
 わがたまはいとさびし
 主よどもにやどりませ
- 二 しのちのくれちかづき
 よのしろかうつりゆく
 主よどもにやどりませ

- 三 よのやみぢものすごとく
 どきのまもちりまてど
 主よどもにやどりませ
 サタナのさそひしげし
- 四 しのちかららづこそや
 われかちてあまりあらん
 わが主よどもにいまさば
 主よどもにやどりませ
- 五 とづる目にじふじかの
 さかえのひをみるまで
 かゝやきをあふがしめ
 主よどもにやどりませ

陪餐後感謝の時用ふる

日課及び詩

詩百三篇。百四十五篇。百十篇。百十一篇。廿三篇等のうち一篇或は二篇。路加福音書廿四〇廿九より三十五。約翰福音書十〇廿七より三十。同十五〇一より五迄の中を用ふるを適當とす。其他猶ほあれども畧す。またシメオンの頌は聖餐ののち常に適當

なる歌なり。

聖餐を受たる後ち會堂を去る

前に左の祈禱をなすべし

あゝ主よ。この卑き僕を棄たまはずして、我に來り給ひしことを謝し奉つる。我は罪と弱きとにより、缺なく聖旨に合ひ主に従ふと能ざるがゆゑに、我と偕に在して我を導き、我を助けて主に従はせ給へ。願くは此の「サクラメント」によりて罪に勝ち聖に進む